

## 栃畑谷地区

この谷は石見銀山の最も古い鉱山集落のひとつがあった場所である。1500年代半ばにさかのぼるこの集落には何百人もの鉱夫とその家族が住み、山腹の平坦な段々の土地に建てられた家に住んでいた。住民たちは谷の中心にある佐毘売山神社で鉱山の神である金山彦神（かなやまひこのみこと）に祈りを捧げ、この地域に建てられたいくつかの仏教寺院に死者を埋葬した。

近隣の採掘場から採掘された銀鉱石は、この場所から川を隔てた対岸にあった加工場で粉碎され、篩分けされ銀を含む部分を選別し、そして製錬された。精錬の過程で鉱石は850℃もの高温に加熱され、精錬所の基礎の一部が残っているだけだが、その建物には耐火性の土壁があり、窓がいくつもあり、煙や亜硫酸ガスを排出するための煙突が各部屋にあったのかもしれない。

栃畑谷には鉱夫たちの住居は残っていないが、段々の土地を補強するために築かれた石垣の一部を見ることができる。坑道の開口部も丘陵のあちこちに見られ、少なくとも江戸時代（1603年～1867年）の終わりごろまで坑夫が住んでいた栃畑谷には、今も佐毘売山神社がそびえ立っている。